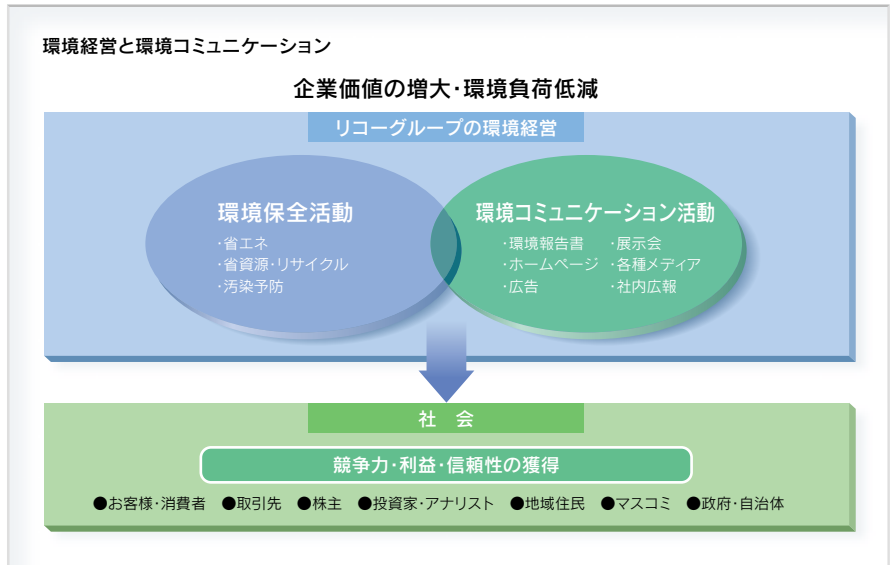




真摯な姿勢でコミュニケーションを図り、
環境保全活動の環を広げていきます。

社会から存続を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し循環型社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を広げていきます。



コミュニケーション活動

環境ホームページの公開

《リコーグループ／グローバル》

リコーの環境ホームページは、グリーン購入法対応製品や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作されています。また、子供向けページECO TODAYの「テンペル・タートルストーリー」では、メキシコ、中国、マレーシアや日本での森林生態系保全活動の内容をやさしく解説しています。クイズやゲーム形式で環境問題について学ぶこともできます。英語版ホームページも開設されており、各国の関連会社にもリンクされています。



<http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday/>

環境広告の実施

《リコー／グローバル》

リコーの環境広告では、リコーの環境経営のコンセプトを、実際の活動事例に基づいてお伝えするようにしています。2004年度は、3冊のサステナビリティ報告書の発行や、NPOと世界各地で進めている森林生態系保全プロジェクトをテーマとした広告などを実施しました。環境広告は、日本だけでなく海外でも実施しています。



サステナビリティに関する広告(ウォールストリートジャーナル)



森林生態系保全の広告(ナショナルジオグラフィック)

展示会への出展

《リコーグループ／日本》

2004年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会・エコプロダクツ2004に出展しました。リコーの出展テーマは「競争力ある環境経営へ」で、省エネモードからの復帰時間10秒の高速デジタル複合機や、環境影響化学物質全廃に向けた取り組みなど、最新の環境技術と全員参加による環境経営実現に向けた取り組みを紹介しました。また、コスモ石油との合同ブースを設け、両社が世界各地で行っている環境社会貢献活動を紹介しました。来場者に応援したいプロジェクトを選んでもらい、両社が参加者の数に応じて苗木を植えるための資金援助を行うという、来場者参加型のイベントも開催し、環境保全の環を広げました。



コスモ石油との合同ブース

環境経営報告書の発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年継続的に報告書を発行してきました。2002年7月に発行した2002年版からはタイトルを「環境経営報告書」と改め、リコーグループの環境経営の考え方や実績を開示しています。さらに2004年度は、サステナビリティレポートとして、環境経営報告書、社会的責任報告書、アニュアルレポートの3つの報告書を6月に同時発行しました。こういった取り組みが評価

報告書の発行時期と発行部数

	発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版 1999.1	26,200	30P
	英語版 1999.1	500	
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版 1999.9	51,300	32P
	英語版 1999.9	8,375	
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版 2000.9	45,950	60P
	英語版 2000.12	6,800	
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版 2001.9	25,950	74P
	英語版 2001.12	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2002	日本語版 2002.7	21,315	84P
	英語版 2002.9	6,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2003	日本語版 2003.6	21,770	84P
	英語版 2003.9	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2004	日本語版 2004.6 (2004年4月 掲載)	18,245	84P
	英語版 2004.9	7,000	

社員に聞く

INTERVIEW

サイトレポートの制作



求められている情報を、求められているかたちで地域の皆さんにお知らせすることを心がけています。

リコー福井事業所
福井総務グループ
担当主席係長
寺嶋 ちあき

1999年に初めて「リコー福井事業所環境報告書」を発行して以来、毎年、誰に何を報告するのかという視点で、改善を重ねてきました。私たちは、地域で生産を行う工場として、近隣にお住まいの方々にこそ、環境報告書や実際の工場の様子をご覧いただき、安心・納得していただきたいと考えています。そこで、2003年度からは、区長、農家組合長、福祉委員長といった地

区、リコーは、東洋経済新報社が「サステナビリティ報告書への取り組みの優秀さに加え、過去のCSR活動においてめざましい実績をあげた最優秀企業」を1社表彰する「CSR報告書継続優秀大賞」を受賞しました。リコーのサステナビリティレポートは、ホームページで請求することができます*。

* <http://www.ricoh.co.jp/about/request/index.html>

サイトレポートの発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、事業を行う地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段としてサイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン*」を作成し、グループ内で活用しています。2004年度は、新たにリコーリース、福井リコーが発行しました。1999年以来発行を続けているリコー福井事業所では、2004年度には、ダイジェスト版を発行するなど新たな工夫を行い、第8回環境報告書賞ではサイトレポート継続優秀賞を、第8回環境コミュニケーション大賞では環境報告優秀賞を受賞しました。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

子供たちへの啓発活動

世界最大の高校生向け 科学コンテストに協賛

《リコーコーポレーション/アメリカ》

米州地域統括会社リコーコーポレーションは、「ISEF (International Science & Engineering Fair)」のメジャースポンサーとなりました。ISEFは、今回56回目を迎える世界最大級の高校生による科学コンテストで、全世界から1,000万人を超える生徒が参加する予定です。同社は、2005年から、14部門のうち「環境科学」「チームプロジェクト」の2部門を支援しています。また、環境保全と持続可能性の重要性を啓発するために、新たに「リコー・サステナブル・デベロップメント賞」を設けました。この賞は環境保全とビジネスを両立させる可能性の高い研究に贈られます。授賞式は5月にアリゾナ州のフェニックスで行われ、受賞者には奨学金50,000ドルのほか、日本の愛知万博への招待などの副賞も贈られました。



リコーコーポレーション市岡会長と受賞者

小中学校の環境活動の拡大をサポート 《リコー/日本》

リコーは、サンケイ新聞写真ニュースセンター主催の「学校自慢エコ大賞」に協賛しました。この賞は、全国の小中学校での環境保全活動の普及促進のために、各校の取り組みをレポートなどの書式で募集し、優秀校を表彰するもので、2005年3月に第1回の表彰が行われました。リコーは、次世代を担う子どもたちに環境問題の重要性を訴え、一人ひとりの活動が地球環境を救うことにつながることを認識してもらえるようにという趣旨に賛同し、協賛しました。